

水稲新品種「ふくまる」の技術定着と普及推進

県南農林事務所 稲敷地域農業改良普及センター

稲敷地域では、平成25年度より一般栽培が開始された水稲新品種「ふくまる」を導入した新たな産地づくりが生産者・関係機関一体となって進められています。普及センターでは、早生、多収、大粒という品種の特性を最大限に発揮できるよう、試験栽培の結果や現地の課題を踏まえて、地域にあった「ふくまる」栽培技術の確立と普及・定着を図っています。

栽培マニュアルに沿った「ふくまる」生産

平成25年度からの一般栽培に向けて、作付け前の栽培講習会を開催しました。千粒重が重く収量性が高いという品種特性を最大限に発揮できるよう、栽培マニュアルに沿った生産を呼びかけました。平成26年産の作付け前には、新規栽培者を中心に25年産の結果を示しながら、栽培マニュアルに沿った基本技術のさらなる浸透を図りました。



栽培講習会の様子



現地講習会の様子

技術の定着と新たな産地の誕生

「ふくまる」の生育特性を生産者に理解してもらうため、中干し時期、追肥時期、収穫前に現地講習会を実施し、基本技術の定着を通じた収量・品質の安定化を図っています。

平成26年度の「ふくまる」生産者は、集荷団体と協力した産地づくりによって大幅に増加し、新たな稲作部会も誕生しています。(H25：31名、32ha → H26：107名、214.6ha)。

さらなる普及拡大にむけて

早場米地帯である稲敷地域の作期や土壌にあった栽培技術を確認するため、実証圃を設置して更に検証を進めています。また、規模拡大に対応した省力・低コスト技術として乾田直播栽培について技術指導を行い、生育状況の把握を行っています。「ふくまる」産地の拡大に向けて、様々なメニューに取り組めるよう、技術確立の支援を行っています。



「ふくまる」現地での取り組みの様子
(上：栽培技術確立実証圃、下：乾田直播)